



## 平成30年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年11月10日

上場会社名 デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 3916 URL http://www.ditgroup.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 市川 憲和  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼執行役員 (氏名) 有地 正光 TEL 03-6311-6532  
 経営企画本部長  
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年6月期第1四半期の連結業績（平成29年7月1日～平成29年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年6月期第1四半期	2,737	15.0	165	22.2	160	18.1	109	25.0
29年6月期第1四半期	2,379	4.0	135	△3.1	135	△3.9	87	△5.6

(注) 包括利益 30年6月期第1四半期 120百万円 (33.2%) 29年6月期第1四半期 90百万円 (△3.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年6月期第1四半期	14.14	—
29年6月期第1四半期	11.55	11.28

(注) 1. 当社は、平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」を算定しております。

2. 30年6月期第1四半期における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年6月期第1四半期	3,514	2,282	65.0
29年6月期	3,713	2,414	65.0

(参考) 自己資本 30年6月期第1四半期 2,282百万円 29年6月期 2,414百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年6月期	—	0.00	—	15.00	15.00
30年6月期	—	—	—	—	—
30年6月期(予想)	—	10.00	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成30年6月期の連結業績予想（平成29年7月1日～平成30年6月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,820	5.3	730	11.7	725	13.1	493	5.8	63.62

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年6月期1Q	7,750,910株	29年6月期	7,750,910株
② 期末自己株式数	30年6月期1Q	70,190株	29年6月期	190株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年6月期1Q	7,721,807株	29年6月期1Q	7,562,350株

（注）当社は、平成28年10月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数（普通株式）を算定しております。

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(1) 経営成績に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(平成29年7月1日～平成29年9月30日)は海外情勢の不透明感が継続しつつも、個人消費と設備投資を中心とした内需による景気の持ち直しが続く、経営環境は引き続き改善傾向となっています。

当社が属する情報サービス産業においては、依然としてIT人材不足という課題を抱えながらも、従来の事業領域に加え、IoT(Internet of Things:モノのインターネット)、ビッグデータ、ロボット、AI(Artificial Intelligence:人工知能)、FinTech(Finance Technology:フィンテック)、等の新分野が広がりを見せており、当社グループにとってもビジネス参入機会の増加と事業領域の拡大に繋がっております。

また、情報漏洩やセキュリティ事故が相次いでいることから、IoTを含めた情報システム全体の「セキュリティ対策」や、我が国全体の課題となっている「働き方改革」には引き続き高い関心が寄せられており、これらのソリューションを有する当社グループの追い風となっております。

このような環境の下、当社グループでは、中期経営計画として次の「5つの事業戦略」を掲げ、積極的な取り組みを継続しております。

- ・リノベーション(既存事業の改革による経営の安定化)
- ・イノベーション(自社商品を軸とした新しい価値創造)
- ・競合から協業へ(協業による事業拡大)
- ・開発からサービスへ(サービス視点での事業拡大)
- ・人材調達・人材育成(採って育てる)

平成30年6月期は、中期経営計画の3年目として、「事業基盤の安定化」と「成長要素の強化」に取り組んでおり、過去2期の取り組み成果と課題を踏まえた新たなステージで経営を進めております。

こうした取組みの中で、「リノベーション」については、金融機関の情報化投資の継続と、医療・製薬分野、自動車関連業界の設備投資の増加に伴い、堅調な伸びを示しました。

「イノベーション」については、独自技術による自社商品であるWebセキュリティソリューション「WebARGUS:ウェブアルゴス」(\*1)およびExcel業務イノベーションプラットフォーム「xoBlos:ゾブロス」(\*2)の前期から進めている商品力拡充と販売強化の効果により、順調な伸びを示しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高2,737,111千円(前年同四半期比15.0%増)、営業利益165,675千円(前年同四半期比22.2%増)、経常利益160,176千円(前年同四半期比18.1%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は109,150千円(前年同四半期比25.0%増)となりました。

(\*1)Webセキュリティソリューション「WebARGUS(ウェブアルゴス)」は、ウェブサイトの改ざんを発生と同時に検知し、瞬時に元の正常な状態に復元できる、新しいセキュリティソリューションです。改ざんの瞬間検知・瞬間復旧により、悪質な未知のサイバー攻撃の被害から企業のウェブサイトを守ると同時に、改ざんされたサイトを通じたウイルス感染などの被害拡大を防ぎます。

(\*2)Excel業務イノベーションプラットフォーム「xoBlos(ゾブロス)」は、Excelベースの非効率な業務を自動化します。これにより、短期間で劇的に業務を効率化することができます。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。

なお、以下の事業別売上高、セグメント利益(営業利益)及びセグメント損失(営業損失)は、セグメント間の内部取引相殺前の数値であります。

#### ①ソフトウェア開発事業

ビジネスソリューション事業分野においては既存顧客を中心とした受注が引き続き順調に推移しました。

エンベデッドソリューション事業分野は、車載機器関連が順調な伸びを示し、加えてスマートフォンを中心とするモバイル関連のアプリ開発の受注の増加もあり力強い伸びを示しました。

自社商品事業分野は、商品戦略と販売戦略の成果により、順調な伸びとなりました。

これらの結果、ソフトウェア開発事業の売上高は2,570,498千円(前年同四半期比16.3%増)、セグメント利益(営業利益)は168,176千円(前年同四半期比23.0%増)となりました。

#### ②システム販売事業

前期において環境の変化に苦慮した当ビジネスは、当期よりカシオ計算機株式会社製中小企業向け「楽一」のビジネスで長年培った販売ノウハウを基盤とし、「楽一」に限らず当社グループが提供する「自社商品」や有力な「他社システム商品」を展開するシステム販売事業として大きく構造改革を進めております。

この結果、システム販売事業の売上高は168,374千円(前年同四半期比2.1%減)、セグメント損失(営業損失)は2,517千円(前年同四半期は営業損失1,877千円)と僅かながら前期実績には届きませんでした。ほぼ想定範囲の結果となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産、負債及び純資産の状況は以下のとおりであります。

①流動資産

当第1四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ173,263千円減少し、2,966,192千円となりました。これは、主に現金及び預金が285,260千円及び仕掛品が25,847千円それぞれ減少し、受取手形及び売掛金が73,838千円及びその他が49,138千円それぞれ増加したことによるものです。

②固定資産

当第1四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ26,048千円減少し、548,393千円となりました。これは、有形固定資産が3,196千円増加し、無形固定資産が157千円及び投資その他の資産が29,087千円それぞれ減少したことによるものです。

③流動負債

当第1四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ67,661千円増加し、1,091,207千円となりました。これは、主に買掛金が24,613千円及び未払法人税等が67,318千円それぞれ減少し、賞与引当金が113,628千円及びその他が48,742千円それぞれ増加したことによるものです。

④固定負債

当第1四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ134,893千円減少し、140,635千円となりました。これは、長期借入金が4,810千円、退職給付に係る負債が265,498千円それぞれ減少し、その他が135,414千円増加したことによるものです。

⑤純資産

当第1四半期連結会計期間末に、前連結会計年度末に比べ132,079千円減少し、2,282,743千円となりました。これは、主に自己株式の取得により自己株式が136,640千円増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年8月10日に公表いたしました通期連結業績予想から修正は行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年6月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,346,391	1,061,131
受取手形及び売掛金	1,555,541	1,629,379
商品	15,261	31,172
仕掛品	129,558	103,710
その他	97,401	146,540
貸倒引当金	△4,699	△5,742
流動資産合計	3,139,455	2,966,192
固定資産		
有形固定資産	91,656	94,852
無形固定資産	23,787	23,630
投資その他の資産		
その他	488,118	457,603
貸倒引当金	△29,120	△27,693
投資その他の資産合計	458,997	429,910
固定資産合計	574,442	548,393
資産合計	3,713,897	3,514,585
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	317,983	293,369
1年内返済予定の長期借入金	32,800	29,408
未払法人税等	133,736	66,418
賞与引当金	—	113,628
受注損失引当金	—	614
その他	539,025	587,768
流動負債合計	1,023,545	1,091,207
固定負債		
長期借入金	4,810	—
退職給付に係る負債	269,291	3,792
その他	1,428	136,842
固定負債合計	275,529	140,635
負債合計	1,299,074	1,231,842
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	453,156	453,156
資本剰余金	459,214	459,214
利益剰余金	1,496,598	1,489,488
自己株式	△457	△137,097
株主資本合計	2,408,511	2,264,761
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,705	15,343
為替換算調整勘定	2,606	2,638
その他の包括利益累計額合計	6,311	17,982
純資産合計	2,414,823	2,282,743
負債純資産合計	3,713,897	3,514,585

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年7月1日 至平成29年9月30日)
売上高	2,379,184	2,737,111
売上原価	1,830,613	2,129,251
売上総利益	548,571	607,860
販売費及び一般管理費	412,975	442,184
営業利益	135,596	165,675
営業外収益		
受取利息	2	35
受取配当金	15	26
受取手数料	997	1,087
助成金収入	—	2,130
受取保険金	1,000	—
その他	687	281
営業外収益合計	2,701	3,560
営業外費用		
支払利息	396	304
為替差損	927	1,087
保険解約損	994	2,385
事務所移転費用	—	4,606
その他	295	675
営業外費用合計	2,614	9,060
経常利益	135,683	160,176
税金等調整前四半期純利益	135,683	160,176
法人税、住民税及び事業税	73,565	58,472
法人税等調整額	△25,192	△7,446
法人税等合計	48,372	51,025
四半期純利益	87,311	109,150
親会社株主に帰属する四半期純利益	87,311	109,150

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年7月1日 至 平成28年9月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年7月1日 至 平成29年9月30日)
四半期純利益	87,311	109,150
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△115	11,638
為替換算調整勘定	△132	32
退職給付に係る調整額	3,638	—
その他の包括利益合計	3,390	11,670
四半期包括利益	90,701	120,821
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	90,701	120,821



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成29年8月23日開催の取締役会決議に基づき、自己株式70,000株の取得を行いました。この結果、当第1四半期連結累計期間において自己株式が136,640千円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が137,097千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年7月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ソフトウェア開 発事業	システム販売事 業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,207,814	171,370	2,379,184	—	2,379,184
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,658	550	2,208	△2,208	—
計	2,209,472	171,920	2,381,393	△2,208	2,379,184
セグメント利益又は損失(△)	136,715	△1,877	134,837	759	135,596

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額759千円は、主にセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年7月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ソフトウェア開 発事業	システム販売事 業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,569,037	168,074	2,737,111	—	2,737,111
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,461	300	1,761	△1,761	—
計	2,570,498	168,374	2,738,872	△1,761	2,737,111
セグメント利益又は損失(△)	168,176	△2,517	165,659	16	165,675

(注)1. セグメント利益又は損失(△)の調整額16千円は、主にセグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。